



第179号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長
清水 孟
編集人 会報編集委員長
小池 勝雄
印刷所 須坂新聞社

研修について思うこと

神津 隆

一人帰りの車を運転している自分が、今までの自分と違う充実感を味わっていることに気づいた。

以前校長講話で聞いた「無言館」へ、窪島先生ご自身の講演をお聞きする前に行ってみたいと思っていた私は、七月のある日曜日、地図を頼りに塩田平へと向かった。

「あと五分、あと十分、この絵を描き続けていたい」その願いながら恋人を出征する直前まで描き続けた日高安典さんの絵の前で目頭が熱くなり、珍しく素直な気持ちになりました。

二時間程の無言館での見学はすばらしかった。だが、それ以上に自ら求めてここに来たことに、今までにない充実感を感じたのである。

研修というものには、誰に強要されることなく自らやる楽しさがある。

二十年近く前のこと、何万円もするPH比色計や伝導度計を買って、水質検査のために洞窟のある仙仁温泉へ来たことがある。プレハブのような建物で、男女別の入口から入るが、中で混浴になっていたのには驚いた。それでも、中で一緒になったおぼちゃんたちと仲良くなった。

一方、組織の中で深められる研修もある。長野市の中学校へ赴任したばかりのころ、先輩に無理やり勧められていやいや天文同好会に入った。同好会といってもいつも四〜五人くらい。

しかし、星座をみながら見たり、星雲を望遠鏡で捕まえた、未知なる宇宙の果てを語り合ったりしていくうちに、この同好会が楽しくてたまらなくなってきた。

不思議なことに、指導書と首っぴきで相当下調べをして

臨んだはずの私の授業に、今までは興味すら示さなかった生徒たちが、天体の学習で同好会で感動した話を少し交えて進めると、身を乗り出してくるのである。

研修というと堅苦しくなるが、きっかけはどうだったか。やらされたり行かされたりする場合もある。しかし、割り切って楽しむことが一番だと思ふ。これこれの研修は授業のどこで役立つかなどというところを最初から考えたら楽しくもない。

本郡では、今年も十五の同好会が発足した。約七十五%の先生方が入っていることになる。この夏休みにはほとんどの同好会が、全会員を対象に講習会等を行った。

肩を張らずに、気軽に、楽しく参加したいものである。そこには人を知る楽しさもある。(須坂小)

本校の中核活動① 盛り上がるVS活動

墨坂中学校

我が母校である墨坂中学校は、今年、四十周年を迎えます。私の中学時代には、二十周年行事が行われましたのであれからもう二十年も経ったのかと思うと感激です。

今回、紹介させていただくVS活動は、私が中学生だった頃も、たいへん盛んでした。それが今でも大切にされているという事は実にうれしい事であり、素晴らしい事であると感じます。

私が最も感心するのは、生徒会を担当される先生方の情熱と、生徒達のそれに応える努力と行動です。

「アフリカへ毛布を送ろう。」今から三年前に、生徒総会の中で一人の生徒の発言から活動が生まれ、今年、市内の小中学校の皆さんのご協力を得て、何と一千枚を越える毛布をアフリカの皆さんへお送りする事ができました。

活動を通じて、生徒達は多くの事を学び取ります。一つの活動を始める勇氣、希望の計画を立て、実行する事の難しさ、苦勞、地域の方々にお願いをし、協力をしていただいた時の感謝の気持ち。アフリカの現状を映像で知り、他国の苦しみ方々へ心を寄せ、改めて見返す、自分達の姿。お昼には中庭に集まり、

are the worldという曲を皆で歌う時の喜び。そして何よりも、目標枚数を達成し、多くの毛布が集まった時の感激と満足感。

決して活動は容易なものではありません。しかし、全て理想通りに進むわけにはありませんが、こうした活動が我が校の中核活動であり、重要な位置を占めている事は確かです。

この活動の他にもポシエツト運動という活動を行いました。残念ながら、これらの活動は、本年度が最後となりそうな状況にあります。今後

どの様な形でこうした活動が展開していくのかは、現在の所よくわかりませんが、いつまでもこのVS活動が伝統として残り、時代の要請に応えながら、更に多角的に発展していく事を願っております。(斉藤澄人)



教育会だより

- 7・21 教育七団体結成会
- 8・27 教育研究会中間連絡会
- 8・28 教育会講演会(於須坂市公民館三階ホール)
- 9・9 講師 窪島誠一郎先生(信濃デッサン館主 無言館主)
- 9・17 演題「二つの美術館のこと」
- 9・24 第4回常任委員会
- 9・29 同好会
- 10・3 第5回代議員会
- 10・8 研究小委員会
- 10・8 教育研究会(於相森中学校)
- 10・8 上高井教育会報第179号発行

ローマの休日

齊藤 章子

「最も印象に残った訪問地は？」「何処も忘れ難く善し悪しを決めることは困難……。ローマ。むろんローマです。」不朽の名作「ローマの休日」のラストシーンで、記者の質



問に「アップバンがグレゴリーベックをじっと見つめて毅然と答える場面がある。学生の頃から、何回も飽きずに観た映画「ローマの休日」。今回の旅行の最終地が、長年の憧れの地ローマであった。映画のとおりにローマは、魅力的な街である。古いものと新しいものが、芸術的に見事に調和している。紀元前に建てられた凱旋門、コロッセオなどの朽ちかけた遺跡とドーム型の白い美しい建築物が何の違和感もなく溶けこんでいる。

二千年

各種研修会に

という気が遠くなるような年月を経て、どっしりと建っている建物。雑然と何もかもが混ざりあって不思議な雰囲気をかもしだしている。街を歩く人々も、種々雑多。「チャオ」と誰彼なく自然と声をかけたくなる開放的な明るさがある。下水道が昔から完備しているため地下に駐車場は作れないので、路上のいたる所にたくさん車の車が駐車してある。その間をぬうように物凄いスピードで車が走りぬける。アップバンがバイクでメチャクチャに走りまわる場面もこの地ならばこそと納得できた。トレヴィの泉のすぐ横に、アップバンが長い髪をバサリと切った理容店があった。今は普通の店になっていたが、三十年も前に撮られた映画にもかかわらず、全体的には当時のままである。二千年も前の建物がそのままある街では当然のことなのだろうか。トレヴィの泉に貨幣を一つ投げ込むと、再びローマに帰ってこれるといふ伝説がある。さっそく、いつかまたローマにきたいという願いをこめて貨幣を投げ込んだ。手を口の中に突っ込むと嘘つきの手は食いちぎられると伝えられている「真実の口」。アップバンが王女の身分を隠しているの、恐る恐る手を入れた場面と重ねながら、自分も手をいれてみた。教会を背に百三十七段の優

雅な階段が広がっているスペイン広場。アップバンが石段にこしかけてソフトクリームをなめていた場面。十八世紀頃ここにスペイン大使館があったことからこう呼ばれているという。今は、ここでの飲食は禁止されている。「ローマの休日」の映画は、アップバンの妖精のような可愛さ

関東甲信越静 学校保健大会に参加して

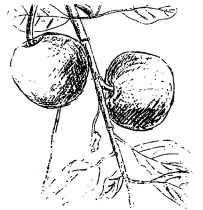
山田 徹

八月二十七日、二十八日の二日間、長野県において学校保健大会が開催されました。私は運営係であったので準備などがあって最初から最後まですべてを通して見る事ができました。報告します。この大会は、児童・生徒の生きる力を学校保健としてどうつけたらよいかというねらいだったかと思えます。第一日目の松居一代さんの講演は「人生に健康・幸せ・家族の健康は私が守る」でした。松居さんは一般的な家庭に育ち、両親は学校の先生にして普通の生活をさせたいと思っていたようですが、本人は芸能界入りを目指して親の反対を押して上京、しかし挫折して帰郷、偶然のチャンスにめぐまれて「IIPM」藤本義一氏の司会相手となった後、女優としてデビュー。結婚して男子誕生の喜びもつかの間、子どもは重症のアトピー性皮膚炎となり、数々の苦難をたどって、人には裏切られ、救われたことからこう呼ばれているという。今は、ここでの飲食は禁止されている。「ローマの休日」の映画は、アップバンの妖精のような可愛さ



(豊丘小)

火ばら 談義



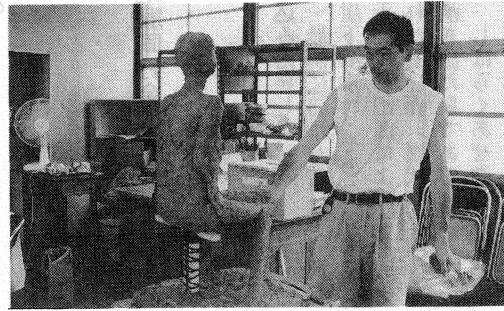
常盤中 望月しのぶ

私の夏休み

村石 靖

峰の原キャンプから下ったその足で、彫塑同好会の準備に行った。一週間の講習である。絵画講習会が終わった後だけに、プロのモデルで、と思うが、高校生のアルバイト(着衣)である。メンバーは気心の知れた仲間でお互いが自由に制作するのが特色。休憩時間に様々な話が出るのも楽しみである。

一日目は角度を変えてスケッチを重ね、構想を練る。二日目、心棒を作り粘土を付け始める。三日から四日目、地山(土台部分)にも材木を入れ、粘土を付ける。全体の形がようやく見え始めるが、これからである(写真)。五日目、全体のバランスを見ながら、さらに粘土を付けていく。今まで見えていたと思っていたものが、この段階になると分らなくなってくる。量感の力強さ、内側からの張りといったものがなかなか表現できない。そして早くも最終日粘土は形がどうにもなるだけに難しい。これで完成とい



うことはないのだが、タイムリミット。粘土のまま置いておけないので、その後、時間を作って石膏型だけ取り、現在そのままになっている。内部の張り込み、流し込みを終えて、型を割り、作品を表す瞬間は、実にわくわくするものである。今年の作品の完成はいっぴくなるやら。例年の講習会が、他の日程と重ならないことを切に願っている。(東中)

開通一周年を迎えて

松澤美代子

北陸新幹線が開通して、間もなく一年になるとうとしていく。すでに、この新幹線を利用したという人も多いと思う。この夏、私も初めて新幹線「あさま」に乗ってみた。初めてなるとやはりドキドキしたが、車内に入ってしまうと、混雑していたせいもあり、ゆっくり旅情を：等という感じはない。速さを誇る新幹線のゆえに、車窓からの景色もほ

とんど望めない。新幹線に乗りながらも学生時代に何往復もした信越線のその姿を思い出した。特に、帰省する際の横川駅と軽井沢駅での様子は、忘れられないものになっている。列車は、横川駅で峠を越えるためにディーゼル車を連結する。その数分間、乗客は、名物の釜めしを買ったり、外の空気を吸ったりして過ごす。

旅をしている気分になれるひとときである。そして、その列車がスタートすると同時に、駅のホームには、一斉に帽子を取り、頭を下げる売り子さんたち。列車が通りすぎるまですずくと礼を続けるその姿を目の当たりにすると、胸にジンと来るものがある。何かしらまっすぐな気持ちにさせられるひとコマであった。列車が軽井沢駅に着くと、ディーゼル車を切りはずす。その間にドアや窓から流れ入る空気。夏はヒンヤリ、さわやかに、冬はピシッと目が覚めるように冷たく。その新鮮

な空気は帰省したことを改めて知らせてくれるようだった。窓から見える浅間山も季節によってそれぞれの美しさを見せてくれた。その浅間山を眺めては、また、帰省を実感したものだ。思い出に浸っているうちに新幹線は東京駅に着いた。新幹線開通で、確かに都心に近くなった。しかし、便利さと引き換えに何か大切なものを失ってしまったのではないかと。と今の私は、思わずはいられなかった。(森上小)

沖縄への旅

師岡 弘絵

今年の三月に沖縄に行きました。卒業旅行として大学時代を共に過ごした仲間とで。といっても怖いモノ知らずの強烈な女六人での旅。それはもうハチャメチャでした。

泉洞王国村、琉球村、パイン園、万座毛、ひめゆりの塔、東南植物楽園、首里城など、とにかく観光スポットをめぐり歩きました。

まず東京までは夜行で、ビール片手に大騒ぎ。飛行機の中でもちよっと動くだけで大騒ぎ。沖縄でも海を見ただけで大歓声。今でも海の青さは強く印象に残っています。沖縄ではレンタカーですべて移動しました。イブサムに

万座毛ではプロレスラーの集団と言われ、パイン園では試食を食べつくし、メンソレーを「こんにちは」と間違えて会う人々に言いまくった私たちですが、やはり沖縄の地に立ち、考えさせられることも沢山ありました。

六人、長野からの荷物と冬の厚着をつめこみ出発。途中で道に迷い、とんでもない所を走ったこともありました。玉

ホテルはオーシャンビューのはずが、海は道の向こう、砂浜はなし。でも六人一室で近くのスーパーで買い出しをして夜中まで大騒ぎしました。



今までになく最高に楽しい旅でした。沖縄の温かさがそうさせてくれたのかもしれない。次に行くときは本島以外の島にも行ってみたいですね。みなさんも一度いかがですか。(旭ヶ丘小)

編集後記

台風七号が大きな爪あとを残しました。被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。各学校では、運動会や文化祭等が無事終了したことと思えます。

本号では、研修に関する内容を中心に編集させていただきました。ご多用中、原稿依頼を快くお引き受けくださり、貴重な原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。深く感謝いたします。(佐藤・高野)